

## 令和7年度 茨城県地域年金事業運営調整会議 議事要旨

開催日時 : 令和7年8月27日(水) 14:30~16:30

開催場所 : 水戸京成ホテル 2階 瑠璃の間

出席者 : 委員 11名

清山 玲 (茨城大学人文社会科学部法律経済学科 教授)

中崎 芳夫 (茨城県社会保険委員会連合会 会長)

飯濱 毅 (茨城県教育庁学校教育部高校教育課 指導主事) 代理出席

瀧 忠則 (茨城県都市国民年金協議会(常陸大宮市保健福祉部医療保険課 課長))

島崎 俊光 (一般財団法人茨城県社会保険協会 常務理事)

浅野 洋子 (茨城県町村会(美浦村保健福祉部国保年金課 課長))

木村 薫 (茨城県社会保険労務士会 会長)

大塚 正之 (全国国民年金基金茨城支部 支部長)

馬場 広登 (関東信越厚生局年金調整課 課長)

※ 三浦 友美 委員(全国健康保険協会茨城支部企画総務部長)、住谷 則男(茨城県商工会連合会 事務局長) 委員は所用のため欠席

日本年金機構職員 8名

白石 圭二 (北関東・信越地域部長)

長谷川 夕子 (水戸北年金事務所長)

笹沼 亜希子 (水戸南年金事務所長)

面川 富士雄 (土浦年金事務所長)

飯島 一徳 (下館年金事務所長)

小磯 勝 (日立年金事務所長)

根本 美知男 (水戸北年金事務所 副所長)

椎木 徳子 (水戸北年金事務所 総務調整課)

傍聴者及び報道関係者 … 茨城新聞社

## 1. 開会

## 2. あいさつ（北関東・信越地域部長）

## 3. 委員紹介

## 4. 議事

- (1) 令和 6 年度 茨城県地域年金展開事業 事業実施報告について
- (2) 令和 7 年度 茨城県地域年金展開事業 事業実施計画について
- (3) その他

## 5. 主な意見等

### 令和 7 年度 茨城県地域年金展開事業 事業実施報告について

（島崎委員）

取組事項の中で確認したいことがあります。年金制度説明会の参加対象者について、事業所に属している者に対しての年金制度説明会ということか。非対面型説明会について、Web システムを使用した年金制度説明会を日本年金機構が行ったという理解でよいのか。非対面で実施する際に年金制度説明会の開催通知の送付件数と参加人数についても、資料の内容に網羅していただくと、より内容の濃い議論が期待できると思う。可視化することによって、今後の事業運営にとって有益であると思う。

令和 6 年度に年金制度説明会を 32 回開催している中で、他の機関等と共同して行っている説明会があるか。もし、有るようであれば、主体がどちらの機関になるのか。行政機関に対しての年金制度説明会について、土浦で開催された後見人養成講座や、下館で開催された年金制度説明会（障害）については、行政機関に機構から開催の依頼をしたものか、それとも、講師派遣の依頼を受けて実施した説明会か。外国人への年金制度説明会を下館と水戸北で開催しているが、開催に至った経緯と、対象者についてお教えいただきたい。

（飯島所長）

資料に記載のある外国人を対象とした年金制度説明会（受講者 200 人）については、下妻市、常総市に外国人のコミュニティーがあり、市役所より参加の案内があったため、国民年金課 2 名で出席した。その際に、個人に対して年金制度説明会を実施した。

（長谷川所長）

水戸北で国際交流協会へ協力を働きかけ、国際交流協会の職員に説明を行う形で実施した。

（島崎委員）

土浦で令和 7 年 1 月 29 日に開催した、年金制度説明会（参加人数 154 人）については、他の年金制度説明会より反響が大きいですが、工夫等があったのか教えていただきたい。

(面川所長)

その件については、お調べして後日の回答とさせていただきたい。申し訳ありません。(後日回答済み)

(大塚委員)

わたしと年金エッセイ、(以下、「エッセイ」)について、令和6年度の応募件数1489件に対して、茨城県の応募が0件であることがさびしい気がした。市町村役場や教育機関等へのポスター掲示やリーフレット回覧で周知が終わってしまっているような感じがする。アニメーション動画があるなら活用して、茨城県からもエッセイを応募してもらえよう活動してもらいたい。ところで、毎年エッセイのポスターはデザインが変り映えしない。今後のポスターデザインはもう少し変えても良いのではないかと思う。

(白石部長)

以前、日本年金機構本部のエッセイの担当をしていたときがあって、その当時からエッセイ募集の県ごとの件数の差がはっきり出ていると感じていた。募集件数の多い県は、もともと教育機関ともつながりが強い。年金セミナーでもエッセイ募集の内容を網羅して積極的にアピールしている。アニメーション動画も活用して積極的に周知・募集の依頼を行なえる流れを作っていきたい。募集件数の各県の濃淡については、本部としても課題となっている。取組の平準化が全国に示せていないのは本部の反省点である。本部から各県に呼び掛けて、拡大していくように努めていきたい。エッセイは文科省の後援もいただいている。その点に関しても教育機関にしっかりと伝えながらアプローチをしていくと良いと思う。カリキュラム的に年金セミナーを組み込むのは難しいと思うが、今後とも課題としてしっかり向き合っていきたい。

(清山委員長)

飯瀨さん、補足でご意見いただけますか。

(飯瀨委員代理)

生徒の所属している学科(普通科や職業科など)は関係なく、公民と家庭科の授業が公共という授業に切り替わっていて、高校2年生までに履修することになっている。その中に社会保障を学習する項目がある。家庭総合の授業についても、ライフプランに年金の内容の学習項目がある。この学習科目については、今年度の厚生白書にも授業実績が記載されている。税金に関する作文については、周知度が高く周囲からも依頼されるため、宿題に出しやすいが、年金のエッセイについてはあまりなじみがないので、宿題に出しにくい。各方面からのアプローチを実施していくことによって、宿題に組み込んでいけるのではないかと思う。年金セミナーについて、非対面・動画型による年金セミナーの開催が少なく、上手に活用できていないのではないかという印象を受ける。実際、非対面型・動画型による年金セミナーの案内件数がどれくらいなのか教えてほしい。

(長谷川所長)

件数的には即時では回答いたしかねますが、非対面・動画型についても、ご案内をしている。教育機関から開催方法のアンケート回答を得て、意向に沿った形で開催をしています。

(飯瀆委員代理)

案内が文書送付のみであると、周知の広まりがどこかで止まってしまう。周知の方法が重要ではないだろうか。案内送付後、学校の意向を聞いてみるというのも一つの方法だと思う。学校における外部人材の活用といっても難しいのが現状です。ただ単に、開催の依頼をするのではなく、年金セミナーを開催することの効果等の説明があると、学校側としても活用を検討しやすくなるのではないかな。

(清山委員長)

年金セミナーの内容が、学校のテキストの、どの項目に対応するのかをアピールすること。セミナー資料も複数パターン展開して「このセミナー教材を」「このパターンで」使用しませんか、の案内であれば、学校側も受け入れやすいということではないでしょうか。開催時間も調整できるようにするとなお良いと思う。

(飯瀆委員代理)

様々なところから、いろいろな資料の案内を受けているが、全部は活用しきれなくても、ピンポイントで活用できる教材が有ることが分かれば、学校側も機構にアプローチしやすくなる。そのことを学校側に伝えることによって、年金セミナー活用促進や今後の開催も継続しやすくなるのではないかな。

(清山委員長)

小中学校では夏休みの宿題をリスト化しており、そこにエッセイの募集を載せて募るようにすれば良いのではないかな。そうすることで、毎年、応募につながる可能性が出てくる。

## 令和7年度 茨城県地域年金展開事業 事業実施計画について

(清山委員長)

各事業において昨年度どうだったかと、今年度の方針を含めた内容でメッセージやアドバイスをお願いします。

(木村委員)

年金セミナー事業についての質問と要望になる。年金セミナー事業は年金に限られることなのか。茨城県社会保険労務士会の社会貢献委員会の中に学校教育グループがあり、大学・高等学校・専門学校などで就職を控えている学生向けに、我々の知識を生かした説明会を実施している。できれば、年金セミナーに茨城県社会保険労務士会も帯同して、年金だけではなく社会に出てから役に立つ制度の説明や、給与に関しての知識についても説明ができれば、有意義なセミナーが開催できると思う。可能なら協力していきたい。

(白石部長)

簡単に申し上げますと大歓迎です。全国的には社会保険労務士会とタイアップして実施している動きがある。ただ、学校の開催枠を様々な機関が取り合っている。税務署と時間を分け合って開催したりもしている。制度説明会も近年は社会保険協会と共催して開催する動きを強めており、年金セミナーも変わらないと思う。日本年金機構本部としてもぜひ積極的に働きかけてほしいと拠点に言っているので、ぜひ、茨城県で実現できればよいと考えます。

(長谷川所長)

土浦では、新入社員向けのセミナーを今年初めて実施した。内容が若年層向けのため将来の年金受給がメインになるが、社会保険料控除の仕組み等のセミナーも承るので、ぜひ茨城県社会保険労務士会と、共催できたら良いと考えている。よろしくお願いいたします。

(清山委員長)

社会保険労務士会とのタイアップした新入社員向けのセミナーについては、非常に有意義と思われるので、ぜひ実現してほしい。来年度その話が聞くことができるのを楽しみしています。

(島崎委員)

令和6年10月から所管部署が変更して、より事業実績評価の向上を目指す形となったと思う。年金委員活動の活性化について、「年金委員活動の活性化・活動状況の共有化に向けた下地作り」とはどのような取り組みとなるか、教えてほしい。

(白石部長)

活動基盤の整備について、連絡系統が定まっていない印象があり、定期的に情報をパンフレット等でお知らせしているが、依頼したい具体的な行動について、伝わっていないところがある。年金委員の制度説明会の機会を多く作っていかないといけないという課題がある。また、研修会の開催回数をもっと増やすことができないか、地域型年金委員に関しては連絡会を開いているが、参加人数が集まらないという課題もある。連絡系統の拡充を行っていくことで基盤の整備が進んでいくと理解してほしい。

(馬場委員)

関東厚生局信越厚生局の取り組みについて、学生納付特例事後更新制度の紹介をします。当局においては学生の年金受給権確保の観点から、学生納付特例法人に指定されていない学校へ7月中旬に協力要請として勧奨文書を送付している。すでに機構本部にも情報提供がされており、各拠点にも周知していると思う。また、今年度は国民年金適用対策として、外国人に向けて国民年金未加入者の職権適用を強化するとのことを聞いている。納付率が低い年齢層である20歳～24歳と重なる部分もあり、外国人保険料納付率の改善に向けて外国人学生に関して、学校側から直接的なアプローチを行うことが有効ではないかと思われる。各年金事務所でも管内の外国人学生の多い学校に学生納付特例事務法人制度の登録勧奨を行っていくと思うが、その際は国でも登録要請の勧奨文書を送付していること、日本年金機構だけでなく国側としても登録のお願いをしていることを伝えていただきたいと思います。

(瀧委員)

常陸大宮市の現状について説明したい。外国人の転入者が増加傾向にあり、言葉が通じないと、一度に5～6人の転入者の対応があり苦慮している。通訳者を帯同してもらい、何とか意思の疎通を図っている。今年度からの取り組みとして、市内の障害者施設で障害年金の手続きについて市の職員が出向いて障害者施設職員に向けての説明会を開催した。年金事務所のOBが非常勤職員として在籍しており、その者が講師を務めた。豊富な経験と知識量のある職員が講師を担当したことによって、よりきめ細やかな説明会となった。

(浅野委員)

美浦村の現状と要望について説明したい。毎年実施している、特別支援学校の3年生に向けた障害年金の制度説明会を今月実施した。今年度も好評であった。昨年度は1年生から3年生の保護者を対象に、障害年金の制度説明会を開催した。年金事務所からもこのような制度説明会の開催を検討してほしい。国民年金の収納対策についても、窓口対応時には免除制度の案内を確実に実施するようにしている。接触機会が少ない方については、周知に苦慮している現状があり、美浦村単体で広報等の対策を行うことは限界がある。収納対策も市町村と日本年金機構がタイアップできるような取組が実現できるとよいと思う。

(中崎委員長代理)

質問があります。大学生・20歳到達者に対しての制度説明会や年金セミナーの対策が非常に弱いように感じる。特に水戸地区を含む管内の事務所が弱い。このことの現状について説明してほしい。

(長谷川所長)

以前は水戸北でも20歳到達時のオンライン説明会を毎月開催していたが、参加者が非常に少ない。教育機関に開催通知を送付し協力を依頼、20歳から25歳で年金記録に電話番号の登録がない者に対して開催通知を送付したが、参加者は伸びなかった。今後は年金制度説明会の位置づけではご家族も対象になるため、日時を工夫して実施することによって、参加人数が上昇していくのではないかと考えている。今後の対応を検討するため、今年度は11月に開催して実績を分析し、説明会実施の方向性を定めたい。

(中崎委員長代理)

20歳到達者が正しい知識を得ることは非常に重要と思うので、あきらめないで制度説明会を続けて欲しい。私たち年金委員をぜひ活用し横の繋がりを強化して、多くの方に年金制度が浸透していくよう協力していきたいと思っている。

6. あいさつ 水戸北年金事務所長谷川所長

7. 閉会